



Sado City

# Sustainable Development Goals Report (Sado First Voluntary Local Review Report)

～ローカルSDGs佐渡島、自立・分散型社会のモデル地域を目指して～

2024



# 目次

市長メッセージ

イントロダクション  
市の概要

未来へ継承する 3 つの資産  
佐渡島の金山  
世界農業遺産  
佐渡ジオパーク

佐渡市を取り巻く社会情勢と現状

本レポートの位置付け

佐渡市のビジョン  
基本理念と将来像  
ローカル SDGs 佐渡島宣言

ビジョン実現に向けた優先的なゴールと指標  
重点的・横断的な取組と分野別施策との関連性  
SDGs 未来都市計画  
自治体 SDGs モデル事業  
経済・社会・環境の三側面をつなぐ統合的取り組み

推進体制とステークホルダーとの連携  
推進体制  
ステークホルダーとの連携

具体的な取り組み  
エネルギー×防災×観光のモデルづくり  
自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

おわりに

参考  
SDGs 未来都市全体計画 自治体 SDGs の推進に資する取組の達成状況

## 市長メッセージ



国際保護鳥に指定され、学名「ニッポニア ニッポン」でも知られる鳥、トキ。かつては北海道から沖縄まで日本各地に生息していましたが、乱獲などによりその数は減少し、日本で生き続けたトキも、1981年を最後に、佐渡で野生絶滅しました。その後、佐渡で人工繁殖が成功し、トキを再び佐渡の空に放鳥する挑戦が始まりました。失われたトキの生息環境を取り戻すため、トキの餌場となる田んぼの生態系に配慮した「生きものを育む農法」などに取組み、2008年に放鳥に成功すると、現在では500羽以上のトキが佐渡の空に羽ばたいています。こうしたトキとの共生を目指した取組が評価され、島全体が「トキと共生する佐渡の里山」として2011年に日本で初めて世界農業遺産に認定されました。

また、佐渡は日本海に浮かぶ離島です。地球温暖化による海水温度の上昇や、自然災害の激甚化は、島の豊かな自然や社会経済活動への脅威にもなっています。さらに、エネルギー供給面では、ほぼ島外からの化石燃料の海上輸送に頼っており、環境負荷・災害リスク上の課題となっています。こうした離島特有の課題に対し、再生可能エネルギーの導入拡大により、地域経済の活性化、防災力の向上、生物多様性の保全を図り、離島佐渡だからこそできる持続可能な循環型社会の小さなモデルづくりを目指します。佐渡は、今後日本でおこりうる課題が先駆けておこっている課題先進地とも言われます。たとえ小さくとも、佐渡で持続可能な循環型社会のモデルづくりを目指すことは、日本の、ひいては世界の持続可能性につながるものと信じております。

生物多様性の保全に取り組む佐渡は、2022年にネイチャーポジティブを宣言しました。ゼロカーボンアイランドの推進とともに、自然への投資や循環型経済の促進に向けて挑戦し続け、豊かな自然と共生し、佐渡ならではの歴史・文化への理解を深め、誇りと愛着を持って次世代へ継承する島づくりを、佐渡のSDGs18番目のゴールと定め、環境、経済、社会、そして、歴史・文化と日常の暮らしが共鳴する持続可能な島づくりに向けて取り組んでまいります。

2024年7月

佐渡市長

渡辺 竜五

# イントロダクション

## 市の概要

### 【位置・地形】

本市は、新潟県のほぼ中央の日本海上に位置し、両津港-新潟港、小木港-直江津港の2つの航路で結ばれており、市域面積は約855km<sup>2</sup>、人口は約5万人の離島の都市です。

北側の大佐渡山地と南側の小佐渡丘陵の二列の山地と、これに挟まれた国中平野により形成されており、東には両津湾、西には真野湾があります。大佐渡、小佐渡を通じて数段に及ぶ海岸段丘が発達しており、島を取り巻く海岸線は約280kmに及びます。

島の大部分が国定公園や県立自然公園に指定されており、豊かで美しい自然環境に恵まれています。また、佐渡沖では、暖流と寒流が交わる影響を受け、冬は本州に比べると温暖で降雪量も少なく、植物は寒暖両系の豊かな植生が見られます。

### 【文化】

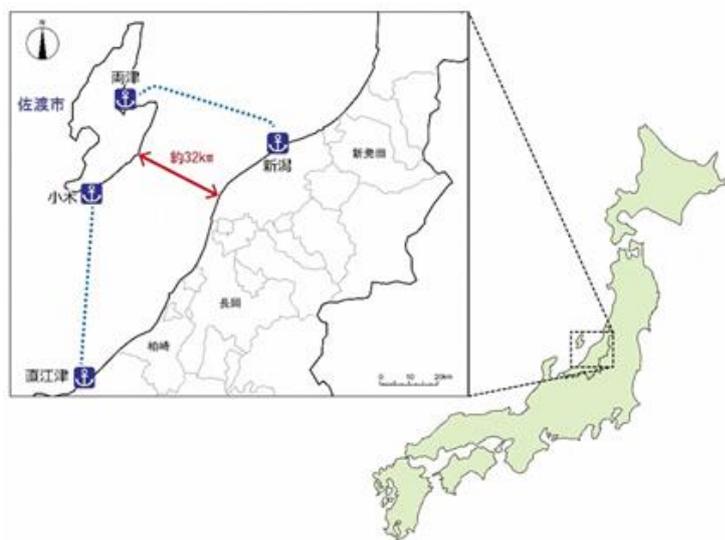
本市の文化は、佐渡に配流となった貴族がもたらした貴族文化や、金銀山の発展により奉行や役人たちが江戸からもちこんだ武家文化、商人や船乗りが運んだ町人文化など、三つの文化が渾然一体となって独自の文化を育てており、「佐渡は日本の縮図」といわれています。

また、特別天然記念物に指定されたトキの野生下での繁殖に成功し生息するなど、トキと共生する島として知られているほか、江戸時代には国内随一の産出量を誇る金銀の採掘地として栄え、現在も多くの文化財が残されています。

### 【産業】

本市の産業は、農業では、トキとの共生を目指し、生物多様性保全を重視した「生きものを育む農法」による米作りのほか、おけさ柿やルレクチエなどの果樹栽培やアスパラガスなどの園芸栽培が盛んです。漁業では、脂がのった一番美味しい時期に漁獲される寒ブリや清浄で栄養豊富な深海に生息する南蛮海老やズワイガニなど、日本海を代表する魚介類が漁獲されています。

また、観光では、世界文化遺産に推薦された「佐渡島の金山」をはじめ、世界農業遺産、日本ジオパークに認定された自然、歴史、文化などの多様な地域資源を活用した滞在型観光を推進しています。



# 未来へ継承する3つの資産

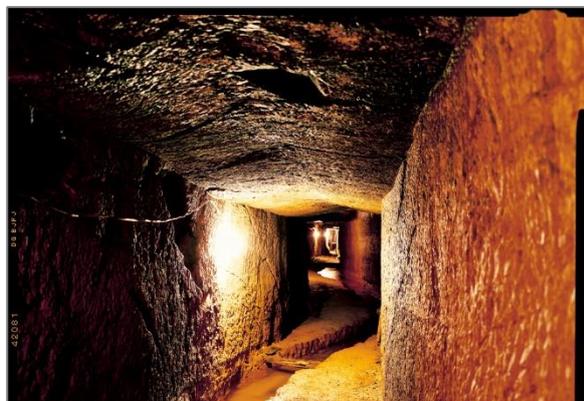
本市は、先人たちが育んできた歴史文化、自然、大地を未来へ継承するため、SDGs の理念が提唱される以前から、持続可能な取組が行われてきました。ここでは、本市が世界に誇る3つの資産について紹介します。

## 1 佐渡島の金山

16世紀末から19世紀半ばにかけて、金を産出する鉱山の島であった佐渡島において、徳川幕府の管理・運営の下、鎖国政策によって海外との技術交流が限られる中、ヨーロッパとその影響下にある地域とは異なる金の生産システムとして佐渡島の金山は発展を遂げました。

鉱山では伝統的な手工業によって世界に誇る質・量の金(世界生産量の10%・最高純度99.54%)を生産し、佐渡島で製造された小判は徳川幕府の財政を支えました。佐渡島の金山は大規模かつ250年以上の長期にわたり継続した金生産システムを示す稀有な産業遺産で、遺跡や歴史的な景観としてよく保存されています。また、全国から集まった人々が持ち込んだ様々な文化や伝統が、芸能や祭礼など佐渡独自の鉱山文化として花開き、現在も大切に受け継がれています。

このように、佐渡の歴史や文化を語るうえで欠かすことのできない「佐渡島の金山」は、2022年に国内候補としてユネスコの世界文化遺産に推薦され、2024年の登録を目指しています。



左上 南沢疎水道(当時の鉱山技術を示す遺構)

右上 京町通り(鉱山まち相川のまちなみ)

左下 佐渡島の金山のシンボルで山がV字型に割れている道遊の割戸(当時、金鉱脈を手作業で掘り進めた結果としての遺構)

## 2 世界農業遺産

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域を、国際連合食糧農業機関が認定する制度です。

本市は、「日本の縮図」といわれるほど多様性に富んだ島です。トキとの共生を目指し、田んぼの生態系に配慮した「生きものを育む農法」の取組みや棚田などの美しい景観、昔から受け継がれている伝統的な農文化が評価され、島全体が「トキと共生する佐渡の里山」として2011年に日本で初めて世界農業遺産に認定されました。



佐渡市農業遺産マーク

### 佐渡市認証米「朱鷺と暮らす郷」

佐渡の美しい里山に、国内の野生のトキは最後まで生き続けました。しかし、乱獲や、効率性を重視した農業の普及に伴う餌場の減少で、国内の野生のトキは姿を消してしまいます。

その後、2008年にトキの野生復帰(放鳥)が、佐渡で行われることになりました。野生復帰には、水田をはじめとする水辺環境をトキの餌場として整備する取組みが不可欠となります。そこで、失われたトキの生息環境を取り戻すため「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」が立ち上げられました。小さな生きものたちの生息場所を確保しながら米作りを行う「生きものを育む農法」という技術を使い、田んぼの中でトキの餌場を確保します。また、田んぼの畦に除草剤を使わず草刈機で雑草を刈ることも認証の要件となっており、緑の畔が佐渡ならではの美しい景観をつくるとともに、農家をはじめとした関係者のこれまでの努力により、今では多くのトキが佐渡の空に羽ばたいています。



### 豊かな農林水産物

世界に誇れる佐渡の里山では、多様な生きものを育むとともに、多種多様な農林産物が生産されています。また、沖合いでぶつかり合う暖流と寒流の影響を受けた里海でも多様な水産物に恵まれています。また、佐渡には、この豊かな食材を活用した昔ながらの「季節の味」、そして先人が残してくれた知恵があります。「その季節に採れるもので作れるものを」これこそが佐渡に伝わる食文化の根底であり、その昔の味を今へ、そして未来へ継承する取組みが進められています。



### 受け継がれる伝統芸能

佐渡の伝統芸能に鬼太鼓があります。島内のそれぞれの地区に流派があり、その発祥は、獅子舞が変化したものであるという説や、相川鉦山で大工が打っていた鳴り物が発展したものであるなど諸説あります。鬼太鼓は島内各地で春や秋に行われる祭りに登場します。鬼太鼓は地域の家々を1軒ずつ回り門付けを行い、舞を披露し、五穀豊穰・家内安全を祈願し、門付けされた家は、振る舞いの料理やお酒で一団をもてなします。鬼太鼓は今も息づく伝統芸能として島民に受け継がれています。



### 3 佐渡ジオパーク

本市は、2013年に日本ジオパークに認定されました。周辺を海に囲まれ、自然豊かで里山の多い佐渡島には、棚田や海の幸、荒波と島の隆起運動が造り出した雄大な海岸美、世界に誇れる大地の遺産である金銀山、特別天然記念物トキとの共生、鬼太鼓などの伝統芸能が息づき、訪れた人々を楽しませています。

本市は、「金を中心とした佐渡鉱山の遺産群」をテーマとした世界文化遺産、「トキと共生する佐渡島の里山」をテーマとした世界農業遺産、「トキが舞う金銀の島3億年の旅とひとの暮らし」をテーマとしたジオパークの3つの遺産を活用し、地域の活性化に取り組んでいます。これらは、別々のものでなく、金や里山は佐渡の大地(ジオ)の歴史と深い関わりを持っており、他の地域にない魅力的な相乗効果を生み出すことにつながっています。

佐渡の金銀鉱脈は、人が住む遥か以前の大昔に起こった火山活動によって作られました。これらの鉱脈は、その後の地殻変動によって海底から隆起し、地上に現れました。火山の噴火や地震は人間にとっては大災害となりますが、そのような大きな大地の変動があったからこそ、佐渡の歴史に大きな影響を及ぼした金山が誕生したわけです。先人たちは、数千万年前の火山活動により時を超えてもたらされた「大地の恵み」を得て、鉱山の文化を开花させ、様々な歴史を生み出してきました。かつて、日本一の産出量を誇った佐渡金銀山には多くの人々が集まり、その人々の食糧をまかなうために広く新田開発が行われました。低地で水の豊かな国中平野、また大地の変動を物語る段丘面や地すべり地の緩斜面には、稲田が広がっています。

佐渡ジオパークは令和5年に10周年を迎えました。次の10年は「楽しむ」「学ぶ」「守る」を活動の柱として、佐渡の大地の歴史と自然や文化の魅力を実感しながら持続可能な地域づくりを目指していきます。



# 佐渡市を取り巻く社会情勢と現状

## 1 人口減少・少子高齢化の進行

本市は、全国に先行して人口減少・高齢化が進行しているとともに、未婚・晩婚化の進行などにより、出生率も低下しています。

人口減少の影響を受け、人材不足や経済的負担、地域コミュニティの衰退、生活基盤の維持管理などの課題を改善し、持続可能な社会を築いていくことが求められています。

## 2 安心安全意識の高まり

本市は、離島であることにより、緊急時の避難や応急・復旧活動に時間がかかることから、地域でできる限り救助・避難を行えるような体制づくりをしていく必要があります。

市民の安全・安心を確保するためには、施設整備をはじめとした防災・減災対策や自助・共助・公助それぞれの体制強化など、安全・安心なまちづくりに行政と地域が連携して取り組んでいく必要があります。

## 3 環境への配慮

本市は、必要なエネルギーを海上輸送した化石燃料に頼っており、再生可能エネルギー自給率は1割未満となっています。このため、環境負荷の軽減に向け「ゼロカーボンアイランド」を宣言し、再生可能エネルギーの地産地消によるCO<sub>2</sub>の実質排出量ゼロを目指しています。

また、一度野生下で絶滅したトキとの共生に力を入れており、市内外のボランティアによる生息環境の保全などに取り組んでいます。

## 4 情報通信技術の進展

本市は、若者の市外転出や産業従事者の高齢化といった課題があることから、情報通信技術を活用した雇用・就業環境の改善や作業負担の軽減といった取組が求められています。

また、人口減少による人材不足や距離的な制約等により、医療・教育などで地域格差が生じていることから、雇用・就業環境の改善や産業、医療、行政などの効率化に向け、情報通信技術の積極的な活用が求められています。

## 5 グローバル化の進展

本市は、世界に誇れる文化・自然を活用したインバウンド観光や産業・福祉における外国人技能実習生など、受入れ体制を強化し取り組んでいます。

今後も、産業やビジネス、文化など幅広い分野でのグローバル化に対応していくために、佐渡の歴史・文化の理解や対話・コミュニケーション能力をもった、世界を舞台に活躍し、地域に貢献できるグローバル人材の育成が求められています。

# 本レポートの位置付け

本レポートは、国際的なレビューである Voluntary Local Review (VLR: 自発的自治体レビュー) のプロセスを参考にしながら、2024 年 7 月に行われる国連ハイレベル政治フォーラム (HLPF) に向けて、佐渡市で行われてきた SDGs の実施および進捗点検の様子を初めてレポートにまとめて公表するものです。

本レポートは、2022 年 5 月に内閣府から選定を受けた SDGs 未来都市の取り組みの進捗を主に報告するものです。

SDGs 未来都市とは、SDGs の理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として選定されるものです。

# 佐渡市のビジョン

## 基本理念と将来像

### 1 基本理念

#### 歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島

～子どもからお年寄りまで 誰もがいきいきと輝ける島～



岩首昇竜棚田

トキ

鬼太鼓

本市は、佐渡金銀山の開発のために日本各地から様々な人が訪れたことにより、多様な文化が融合した独特の文化が形成されました。近年では、2011年に世界農業遺産、2013年に日本ジオパークに認定されるなど、自然、歴史、文化などの豊富な地域資源が評価されています。

一方で、人口減少による過疎化や地域コミュニティの衰退、経済の低迷などの課題が生じており、佐渡を支える人材・活力の減少が懸念されます。

そのため、「歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島」を基本理念として掲げ、子どもからお年寄りまで誰もがいきいきと輝ける島を目指します。

「歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島」を基本理念として掲げる、本市の総合計画の策定にあたっては、市民・関係団体・学識経験者から構成される「佐渡市総合計画審議会」や、庁内の検討組織である「佐渡市総合計画審議会幹事会」で検討・審議を行いました。

また、市民参加としてアンケート調査やワークショップ、タウンミーティングなどにより、子育て世代や高校生をはじめとした様々な意見をいただき、施策の方針や取組を検討する際の参考としました。

## 2 将来像

### トキの舞う美しい島

トキが舞う豊かな自然環境を守り、安全かつ快適なまちづくりを進めます。

### 文化の薫るおけさの島

子どもたちが夢や希望をもつことのできるまちづくりを進めます。

### 人情と優しさのあふれる島

人権が尊重され差別や偏見のない明るいまちづくりを進めます。

### 笑顔と長寿の明るい島

市民が心身ともに元気で暮らし続けられるまちづくりを進めます。

### 働く汗の光る島

持続可能な産業を支え、雇用の場を創出し、地域の活力あるまちづくりを進めます。

## ローカル SDGs 佐渡島宣言

本市では、ローカル SDGs とも言われる「地域循環共生圏」の実現に向けて、2021年にシンポジウムを開催し、島内の企業、金融機関、農業関係者、高校・大学、行政関係者など、約230名が参加しました。

本シンポジウムにて、環境・経済・社会を好循環させるための地域循環共生圏の創造に向けた取組を推進するとともに、「SDGs日本モデル」宣言に賛同し、絶滅したトキの野生復帰を果たした離島佐渡から、日本のモデル地域となって様々な社会的課題の解決と持続可能な地域づくりを推進することを誓い、「ローカル SDGs 佐渡島宣言」を行いました。

この日を出発点とし、総合計画に掲げる将来像の実現に向け、地域循環共生圏の創造とSDGs未来都市に向けてのチャレンジ、課題解決先進地を目指す取り組みが始まりました。



## コラム1 > 総合計画とSDGsの関係

本市では、SDGsに掲げる持続可能な社会の実現に向けて、SDGsの17の目標と総合計画に掲げる各施策との関係性を明確にしています。

### 1 施策とSDGsとのマッピング一覧

基本目標1 豊かな自然と共生した、安全で快適なまちづくり

施策	SDGs ゴール	施策の展開	SDGs ターゲット
1 防災・減災機能の強化	1.4.11.13	1.防災意識の向上と防災教育の推進	11.b.4.7.13.3
		2.自主防災組織の育成	11.b.13.1
		3.緊急情報伝達システムの構築	11.b.1.5.13.3
2 消防・救急体制の充実	1.11.13	1.消防体制の整備	11.b.1.5
		2.救急体制の充実	11.b.1.5.13.3
3 交通安全・防犯対策の推進	3.11.16	1.交通事故防止	3.6.11.2
		2.安全安心なまちづくり	11.3.16.1.16.a

(佐渡市総合計画資料編より一部抜粋)

### 2 SDGsのゴール・ターゲットに対する施策のマッピング

目標	ターゲット	施策の展開
1 貧困	<p>《目標1》 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</p> <p>ターゲット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。</li> <li>1.5 2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靭性(レジリエンス)を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に対する暴露や脆弱性を軽減する。</li> <li>1.b 貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するための、国、地域及び国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。</li> </ul>	<p>施策の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1-1-3 緊急情報伝達システムの構築(1.5)</li> <li>1-2-1 消防体制の整備(1.5)</li> <li>1-2-2 救急体制の充実(1.5)</li> <li>2-3-1 健康づくりと介護予防の推進(1.b)</li> <li>2-3-3 医療・介護・福祉が一体的に提供されている地域包括ケアシステムの推進(1.3)</li> <li>2-4-1 地域における子育て支援サービスの充実(1.3)</li> <li>2-4-2 子育て支援に関する情報提供・相談体制の充実(1.3)</li> <li>2-4-3 配慮を必要とする子ども・家庭への支援(1.3)</li> <li>2-6-2 支え合い意識の高揚・相談支援の充実(1.3)</li> </ul>

# ビジョン実現に向けた優先的なゴールと指標

## 重点的・横断的な取組と分野別施策との関連性

基本理念の実現に向け、本市の喫緊の課題である人口減少問題や、離島特有の課題に対し各施策を着実に実行していくために、グローバルな視点や教育の視点、情報通信技術の進展を踏まえつつ、特に重点的に取り組むべき施策を分野横断的に位置付けた5つの「重点的・横断的な取組」を設定しました。

### 1 子育て支援・健康長寿の推進

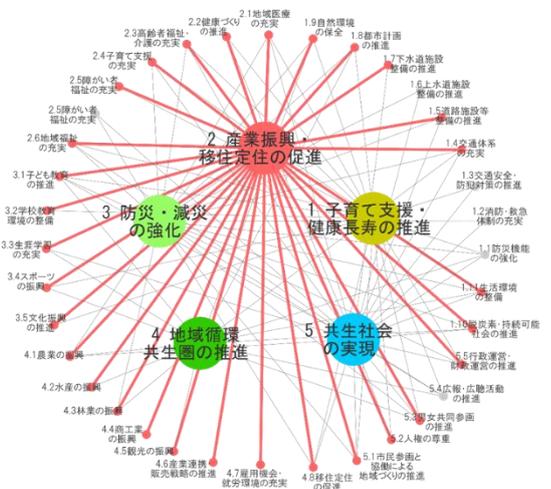
### 2 産業振興・移住定住の推進

### 3 防災・減災の強化

### 4 地域循環共生圏の推進

### 5 共生社会の実現

また、5つの重点的・横断的な取組と総合計画に掲げる各施策について、佐渡市の過去の計画等をテキスト分析等の手法で精査・分析したところ、佐渡市が持続的に発展していくには、自然資源の保全と持続可能な利用(環境面)、農業と観光業を中心とした経済セクターの活性化(経済面)、移住定住の促進・共生社会の実現(社会面)といった主要セクター間の好循環を創り出すことが不可欠で、総合計画で示される5つの重点的・横断的な取組と各施策は、その実現のために相互に関連性の大きい、有効な方策であるとの結果を得ました。(提供:公益財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES))



重点的・横断的な取組 2(産業振興・移住定住の促進)と各施策との関わり(佐渡市総合計画資料編より抜粋)

## SDGs 未来都市計画

本市は、基本理念を達成するうえで、優先的な SDGs のゴール、ターゲットを設定し、実施すべきアクションを盛り込んだ SDGs 未来都市計画を策定し、2022 年 5 月に SDGs 未来都市に選定されました。

また、国から SDGs 未来都市に選定された自覚を深め、島全体で SDGs を推進する共通指針として、2023 年 3 月に「佐渡市地域循環共生圏の創造による持続可能な島づくり推進条例」を制定し、市民とともに SDGs の取り組みを進めています。

### (経済)

ゴール、ターゲット番号	KPI	
  8.3 9.2 9.b	指標: 市内総生産額	
	現在(2018年):	2030年:
	172,380 百万円	180,000 百万円
  8.9 12.b	指標: 1人当たりの観光消費額	
	現在(2020年):	2030年:
	41,408 円	55,000 円以上
	指標: 市内の宿泊者数	
現在(2020年):	2030年:	
189,210 人泊	550,000 人泊以上	
  8.8 10.7 12.8	指標: 社会動態における人口移動数	
	現在(2020年):	2030年:
	▲180 人	0 人

### (社会)

ゴール、ターゲット番号	KPI	
  1.3 4.2 5.1 16.2	指標: 出生数	
	現在(2020年):	2030年:
	245 人	287 人以上
	指標: 健康寿命(平均自立期間要介護2以上) 男性・女性の平均値	
現在(2020年):	2030年:	
80.3 歳	81.0 歳以上	

ゴール、ターゲット番号	KPI	
 11.4	指標:世界遺産構成資産の整備件数	
	現在(2020年): 1件	2030年: 8件以上
 4.7	指標:出前授業、市民講座等の参加者数	
	現在(2020年): 4,190人	2030年: 5,300人以上
  5.5 12.8	指標:市の付属機関・懇談会等における女性の登用割合	
	現在(2020年): 26.2%	2030年: 40.0%以上
  4.7 10.2	指標:今後も佐渡に住み続けたいと思う人の割合	
	現在(2020年): 78.4%	2030年: 90.0%以上

(環境)

ゴール、ターゲット番号	KPI	
 15.4	指標:トキの野生下定着数	
	現在(2020年): 484羽	2030年: トキが過密にならず遺伝的多様性と個体数増加傾向を維持
  2.4 15.4	指標:水稲の無農薬無化学肥料栽培の取組人数(累計)	
	現在(2020年): 39人	2030年: 60人以上
  7.2 9.4	指標:市内の再生可能エネルギーの導入量	
	現在(2019年): 5,968kW	2030年: 25,653kW
 12.5	指標:リサイクル率	
	現在(2020年): 17.9%	2030年: 22.6%以上
 13.3	指標:市内の温室効果ガス(CO2)排出量	
	現在(2018年): 472千t-CO2	2030年: 320千t-CO2以下

佐渡市地域循環共生圏の創造による持続可能な島づくり推進条例



<https://www.city.sado.niigata.jp/soshiki/2005/48113.html>

# 自治体 SDGs モデル事業

本市は、2023年5月に、SDGs 未来都市の中で特に先導的な取り組みとして自治体 SDGs モデル事業の選定を受けました。

本市の自治体 SDGs モデル事業は、経済・社会・環境面における主要事業を束ね、循環型社会・脱炭素社会・歴史文化継承社会の実現に向け、世界に誇れる佐渡島の金山、特別天然記念物トキとの共生、先人から受け継がれてきた歴史・文化を活かし、経済、社会、環境の三側面の統合的向上を目指すものです。

また、本市は、2022年6月に脱炭素先行地域の選定を受けており、SDGs 未来都市と脱炭素社会の実現を目指して取り組みを進めています。

## 経済面の主な事業 — 地域産業の活性化、観光地として選ばれ続ける島づくり —

- ・佐渡独自の歴史・文化の中で暮らし、多様な働き方に対応した環境整備
- ・地域経済を刺激する起業・創業等の推進による企業・人材誘致
- ・トキ、森・里・川・海・大地、島をまるごと活用したサステナブル観光

## 社会面の主な事業 — 安全で快適にいきいきと暮らせるまちづくり —

- ・防災レジリエンス強化、安心して生み育てられる環境整備、行政サービスの利便性向上
- ・子どもたちの郷土愛、情報化社会で生き抜く力の醸成
- ・歴史文化の保存・継承

## 環境面の主な事業 — 生物多様性の保全、化石燃料依存からの脱却 —

- ・トキの餌場確保と生物多様性の米づくり
- ・公共施設に太陽光発電設備の設置
- ・脱炭素社会に向けたライフスタイル転換の推進(マイボトル、3R、食品ロス削減)

経済	社会	環境
<p><b>地域産業の活性化</b></p>  <p>佐渡独自の歴史・文化の中で暮らし、多様な働き方に対応した環境整備</p> <p>地域経済を刺激する起業・創業等の推進による企業・人材誘致</p>  <p>移住希望者への確実な情報発信と移住後も安心して暮らせる環境整備</p> <p><b>観光地として選ばれ続ける島づくり</b></p> <p>トキ、森・里・川・海・大地、島をまるごと活用したサステナブル観光</p> <p>「佐渡に暮らすように旅する」滞在型観光</p> 	<p><b>市民のQuality Of Lifeの向上</b></p> <p>安全で快適にいきいきと暮らせるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の防災レジリエンス強化</li> <li>・安心して生み育てられる環境整備</li> <li>・行政サービスの利便性向上</li> </ul> <p><b>歴史文化の継承</b></p> <p>「佐渡株式会社」運営体験事業 子どもたちの郷土愛、情報化社会で生き抜く力の醸成</p>  <p>地域の歴史文化の保存、継承 情報通信技術を活用したアプリの拡充</p>	<p><b>生物多様性の保全と農林水産振興</b></p>  <p>給食にオーガニックな農産物を提供 トキの餌場確保と生物多様性の米づくり(朱鷺と暮らす郷づくり認証制度)</p> <p>佐渡産木材を保育園の遊具等に活用する木育プロジェクト 循環型林業、ブルーカーボンの推進</p>  <p><b>化石燃料依存からの脱却</b></p>  <p>公共施設に太陽光発電設備(脱炭素先行地域) 太陽光発電設備や電気自動車の購入支援</p> <p>脱炭素と防災に強い庁舎 脱炭素社会に向けたライフスタイル転換・ムーブメント(マイボトル、3R、食品ロス削減)</p> <p>ごみの減量・食品ロスの削減</p> 

# 経済・社会・環境の三側面をつなぐ統合的取り組み

本市は、経済・社会・環境のそれぞれの分野の課題解決につながる取り組みを進めるとともに、三側面をつなぐ統合的取り組みを実施することで、各分野における双方向の、より高い相乗効果の創出を目指します。

また、この取り組みは行政や企業、市民などの多様な人々との連携のもとで取り組むものであり、将来的に事業として自走することを目指します。

## 相乗効果

経済→社会	UI ターン増、地域の賑わい	社会→経済	安全な島の魅力による交流人口増
社会→環境	島の環境に対する意識向上	環境→社会	再エネと防災による快適なまち
環境→経済	環境の島ブランディング	経済→環境	再エネ・省エネによるCO <sub>2</sub> 削減

## 多様なステークホルダーとの連携

島内外の産官学民の多様なステークホルダーが共創するプラットフォームを目指し、2022年11月に佐渡島自然共生ラボを設立。本市の豊かな自然資源を生かした産業の発展や暮らしの充実に向けたプロジェクトが始まっています。

他に、SDGs 未来都市佐渡オリジナルロゴマークの制定、佐渡SDGs パートナーの募集等により、国内外へのアピールや地域のパートナーづくりに取り組んでいます。



佐渡島自然共生ラボロゴマーク



SDGs 未来都市佐渡ロゴマーク



佐渡SDGsパートナー発足式

## 自律的好循環

世界文化遺産登録の推薦等も後押しし、今後、増加が見込まれる観光需要等を捉え、島の環境保全への協力を求める手法として宿泊税や環境協力金等、自主財源の確保の検討を進めます。

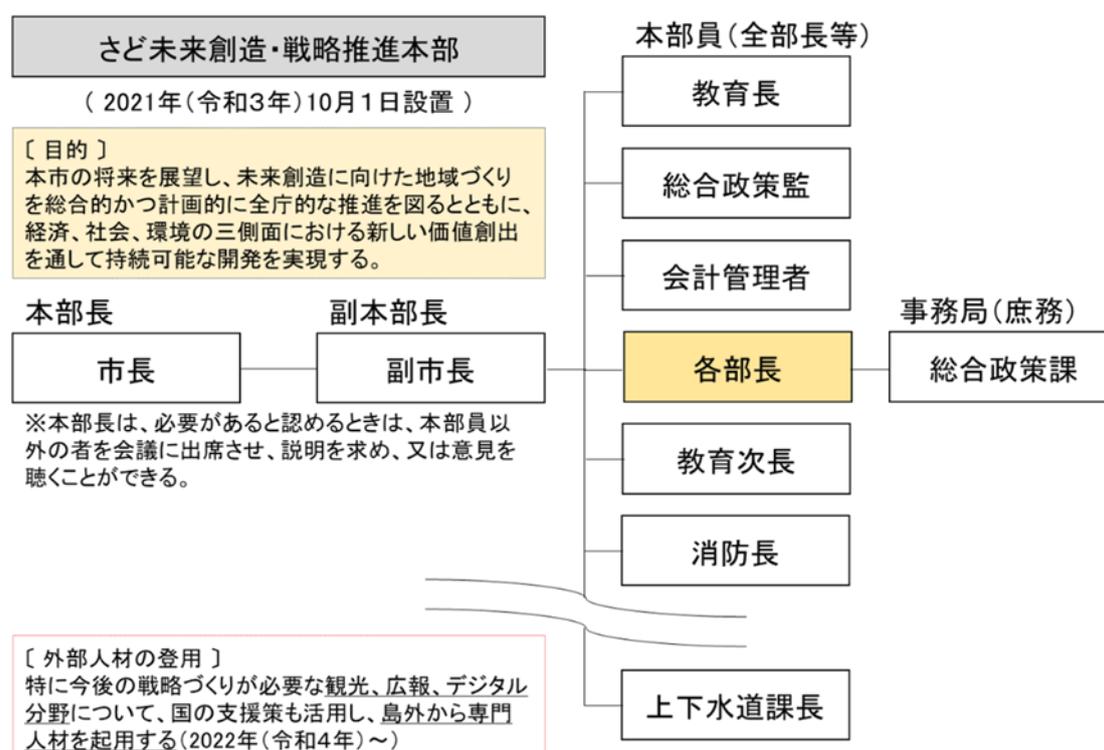


# 推進体制とステークホルダーとの連携

## 推進体制

2021年10月に市長をトップとした政策決定機関「さど未来創造・戦略推進本部」を設置し、経済、社会、環境の三側面における新しい価値創出を通して、持続可能な地域づくりに取り組む体制を整えました。

2022年4月には、庁内組織を課制から部制へ改編し、変更後は各部長等が本部員となり、2030年のあるべき姿に向けて本部長のリーダーシップの下、本部員が課題を共有し、各施策の相乗効果を発揮できるよう調整する体制を整えました。



### 〔役割〕

- ① 佐渡市総合計画及び諸計画等の一体的な推進
- ② 未来創造に向けた持続可能な地域づくりの全庁的な推進
- ③ 未来創造に向けた持続可能な地域づくりの総合調整

## ステークホルダーとの連携

佐渡市総合計画及び諸計画等の重要な施策に関する計画の一体的な推進にあたり、広く有識者、市民等からの意見、助言を求め、地域内外のステークホルダーとの連携を進めています。

## (1) さど未来創造・戦略推進会議

〔役割〕総合計画等の推進、検証など

〔体制〕産業界及び金融機関の関係者、地域及び地域団体の代表者、関係行政機関の職員、学識経験者

## (2) 朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会

〔役割〕生きものを育む農法の推進による生物多様性の保全など

〔体制〕農業協同組合、新潟県地域振興局、地域団体など

## (3) 佐渡教育コンソーシアム

〔役割〕地域の未来を担う人材の育成と子どもたちにより良い学びの場の提供

〔体制〕小中学校長会、高等学校長協会、大学、産業界関係者、新潟県地域振興局など

## (4) 佐渡市脱炭素推進会議

〔役割〕脱炭素社会の実現に向けた事業・取組に関する協議など

〔体制〕エネルギー関係事業者、産業界及び金融機関、有識者、関係行政機関の職員

## (5) 佐渡島 MaaS 検討会

〔役割〕観光地及び過疎地域における新たなモビリティサービスに向け、ICT を活用した多様な交通体制の構築を図り、政策間連携に取り組む

〔体制〕国土交通省、公安員会、道路港湾管理者、公共交通事業者、公共交通の利用者団体、観光交流機構、学識経験者など

## (6) 佐渡市デジタル活用推進検討懇談会

〔役割〕デジタル社会の構築に向けた取組の推進や「佐渡市デジタル化構想・計画」に関する協議

〔体制〕学識経験又は専門知識を有する者、関係機関の職員、公募市民

## コラム2 > 国際社会への発信

本市は、2011年に日本で初めて登録された世界農業遺産のネットワークや国際会議、世界的な自治体ネットワーク、国際的な枠組への参画、国際的目標への取組宣言を通じ、SDGs 未来都市、脱炭素社会に向けた取組を国際社会に向けて発信しています。



### 世界農業遺産(GIAHS)の認定(2011年)

自然と共生する農林水産業が育む豊かな生態系や美しい景観、伝統文化、芸能などが残されている世界的にも重要な地域を認定し、次世代へ継承する目的に創設された制度



### イクレイ(ICLEI)持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会へ加盟(2022年)

持続可能な未来づくりに取り組む都市や地域が参加する世界的な自治体ネットワーク



### 世界首長誓約/日本へ署名(2022年)

気候変動対策に取り組み、持続可能でレジリエントな地域づくりを目指すとともに、パリ協定の目標達成に貢献しようとする自治体の首長が誓約する国際的な枠組



### ネイチャーポジティブ宣言(2022年)

生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せるための第一歩として、本市の活動を表明



### 生物の多様性を育む農業国際会議 ICEBA2023(2023年)

生きものに配慮した農法、有機農産物、SDGs や脱炭素を踏まえた、これからの農業のかたちを考えるをテーマとした農業国際会議

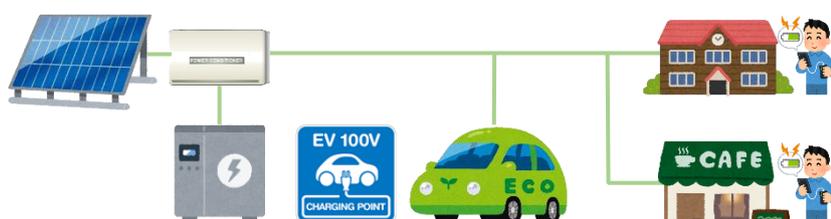
# 具体的な取り組み

## エネルギー×防災×観光のモデルづくり

産学官の多様な主体が活動する西三川エリアは、EVの充電スポット空白地帯であり、大雪に伴う倒竹による停電や集落孤立のリスクを抱えています。環境・社会・経済の三側面の課題解決に向け、産学官の連携により、太陽光発電によるEV充電設備の整備や未整備竹の活用、EVの充電待ち時間を活用した観光促進により、エネルギー×防災×観光のモデルづくりを目指しています。

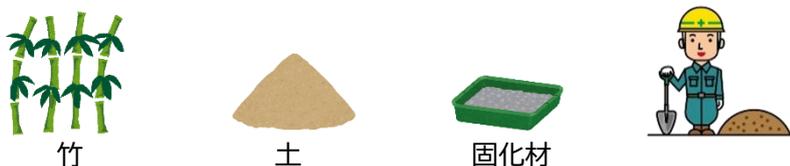
### 太陽光発電を活用したEV充電と、災害時における蓄電池による電力供給スポット整備

太陽光発電を活用した再生可能エネルギー100%のEV充電設備を設置しました。太陽光発電の電力は①EVの充電、②蓄電池に貯めた電気を災害時に市民にご利用いただける電力供給スポットでの活用を行います。



### 竹の新たな活用に向けた竹チップ舗装

2022年12月の大雪で、倒竹による市道除雪の支障や停電が発生しました。竹を資源として活用する機会が減り、未整備の竹林が増えたことが倒竹の一因であることから、竹の新たな活用として竹をチップ化し、舗装の材料として利用する竹チップ舗装を実証します。竹チップ舗装は、クッション性や耐久性に優れ、防草や耐熱効果があるとともに、地域課題の一つである未整備の竹林の竹を資源として地域で循環させていくことを目指します。



### EV充電待ち時間を活用した観光促進

EV充電設備の周辺は、目の前に広がる日本海と、きれいな夕日が臨める風光明媚な場所であり、EVの充電待ち時間にゆっくりと景色を楽しむことができます。



## 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

### 1 佐渡 SDGs パートナー

持続可能なまちの実現に向けて、本市とともに SDGs の取り組みを実施していただける事業者を募集し、パートナーシップの強化を図ることを目的に 2022 年に創設。現在 100 社登録（2024 年 3 月時点）。2030 年までに 200 社の登録を目指します。

### 2 佐渡島自然共生ラボ

竹資源の利活用勉強会、企業の交流や連携の促進に向けた企業パートナーシップ懇談会、SDGs 普及イベントの実施など、地域の課題解決に資する多様なプロジェクトの創出に向け、人材育成、ネットワーク形成のプラットフォームとして機能させていきます。

### 3 宿泊税や環境協力金

世界文化遺産登録の推薦等も後押しし、今後、増加が見込まれる観光需要等を捉え、島の環境保全への協力を求める手法も含め自主財源の確保を検討します。

# おわりに

本市は、2024年3月に市制施行20周年の節目を迎えました。

この節目に永年に渡って取組んできた「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録がゴールを迎えようとしていることは大変に感慨深く、すべての関係者に敬意を表します。

佐渡の誇る文化的、歴史的な価値を国内外に発信し、国や県と連携しながら世界文化遺産の登録の実現に挑戦するとともに、100年後の世代に継承するためにも、未来の佐渡をつくる基礎を固め、国や県、島内外の企業、大学等との連携を強化しながら、課題先進地から課題解決先進地への転換を図り、島全体が元気になる持続可能な島づくりを実現してまいります。

地域社会を取り巻く課題に対し、本市と関わりを持つ多様なステークホルダーとSDGsの達成に向けて、連携・協力し合い、新たな視点、知恵、経験、資源を結集し、これまでの枠組みにとらわれることなく取り組んでまいります。

# 参考

## SDGs 未来都市全体計画 自治体 SDGs の推進に資する取組の達成状況 2022 年度末時点

(計画期間 2022 年～2024 年)

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2024年目標値	達成度 (%)
1	トキの舞う美しい島 ～豊かな自然と共生した、安全で快適なまち～	水稲の無農薬無化学肥料栽培の取組人数 (累計)	2020年 39 人	2022年 42 人	2025年 55 人	19%
2	トキの舞う美しい島 ～豊かな自然と共生した、安全で快適なまち～	市内の再生可能エネルギーの導入量	2019年 5,968 kW	2022年 6,083 kW	2025年 15,392 kW	1%
3	トキの舞う美しい島 ～豊かな自然と共生した、安全で快適なまち～	市役所庁舎建設及び改修における建築物省エネルギー性能表示制度 (BELS) による 5 段階評価	2021年	建設工事着手 2022年 工事進捗 50%	R e a Z 上 a Z の d E 取 y B 得 認 証	50%
4	笑顔と長寿の明るい島 ～一人ひとりが活躍し、いきいきと暮らせるまち～	出生数	2020年 245 人	2022年 206 人	2025年 270 人	-156%
5	笑顔と長寿の明るい島 ～一人ひとりが活躍し、いきいきと暮らせるまち～	肥満 (BMI25以上) に該当する人の割合	2020年 30.0 %	2022年 29.8 %	2025年 26.2 %	5%
6	笑顔と長寿の明るい島 ～一人ひとりが活躍し、いきいきと暮らせるまち～	身体活動を 1 日 1 時間以上実施する市民の割合	2019年 81.0 %	2022年 76.2 %	2025年 84.0 %	-160%
7	笑顔と長寿の明るい島 ～一人ひとりが活躍し、いきいきと暮らせるまち～	未治療者 (糖尿病・高血圧症) の割合	2019年 19.6 %	2022年 22.7 %	2025年 19.0 %	-517%
8	文化の薫るおけさの島 ～郷土への誇りと未来への希望を育むまち～	世界遺産構成資産の整備件数	2020年 1 件	2022年 1 件	2025年 6 件	0%

No	取組名	指標名	当初値	2022年 実績	2024年 目標値	達成度 (%)
9	文化の薫るおけさの島～郷土への誇りと未来への希望を育むまち～	出前授業、市民講座等の参加者数	2020年 4,190 人	2022年 6,077 人	2025年 6,077 人	100%
10	働く汗の光る島～地域の活力と賑わいあふれるまち～	シェアオフィス等入居企業数	2020年 0 社	2022年 16 社	2025年 16 社	100%
11	働く汗の光る島～地域の活力と賑わいあふれるまち～	新規起業、企業誘致し雇用した人数	2020年 29 人	2022年 99 人	2025年 99 人	100%
12	働く汗の光る島～地域の活力と賑わいあふれるまち～	1人当たりの観光消費額	2020年 41,408 円	2022年 46,322 円	2025年 52,900 円	43%
13	働く汗の光る島～地域の活力と賑わいあふれるまち～	航路利用者数	2020年 70 万人	2022年 98 万人	2025年 130 万人	47%
14	働く汗の光る島～地域の活力と賑わいあふれるまち～	U I ターン者数	2020年 504 人	2022年 600 人	2025年 600 人	100%
15	人情と優しさのあふれる島～心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまち～	市の付属機関・懇談会等における女性の登用割合	2020年 26.2 %	2022年 25.6 %	2025年 40.0 %	-4%
16	人情と優しさのあふれる島～心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまち～	人権問題に関心があると回答した人の割合	2019年 76.2 %	2022年 - %	2025年 78.0 %	0%

Sustainable Development Goals Report

2024年7月

---

企画・編集：新潟県 佐渡市 企画部 総合政策課

発行者：新潟県 佐渡市

〒952-1292 新潟県佐渡市千種 232

TEL:0259-63-3111(代表)